

ホーム名：グループホーム東神田の里 あかしあ通り					
自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人内理念に基づきユニット内で方針を決定し共有、掲示している。また、接遇委員会にて標語を募集し月替わりで掲示している。変更等の必要性については適時ユニット会議で起案している。	法人運営施設共通の理念に基づき、各ユニットごとに運営方針を策定している。運営方針に基づく実践においては、接遇によるホスピタリティが何より大切と位置づけている。	施設側でも地域密着型サービスとして何が大切かを考えておられると思うが、地域や利用者や家族のニーズに答える価値を理念としてつくりあげてはどうか。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議にて地域の代表者と自治会行事や施設行事を共有し相互に参加を推進し地域住民と入居者の交流を行っている。SNS等を通じた発信には至っていない。	地域の一員として、地域と施設側の双方で行事予定を共有し、行事を通じて交流が行われている。又、地域の介護相談窓口として、地域住民の介護に関する様々な相談にも対応している。	地域の一員として、地域の活性化につながる取り組みに期待したい。介護の専門家として、行政とも連携し、この分野での地域課題の解決に取り組まれてはどうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民の方には自治会掲示板や入居者ご家族を通じて認知症の方への理解や支援に対する相談を受け付けている。また、施設行事の情報を発信し参加を推進している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長や地域包括支援センターの方にも出席をお願いし入居者はじめ家族様にも参加頂き意見や要望を伺い情報公開や発信を行っている。自治会や家族様の参加が困難な場合は事前に書面を頂きその内容を協議し後日、協議結果等を報告している。IT活用等については至っていない。	定期的に運営推進会議を開催し、行政、地域、利用者、家族と施設側からの運営状況報告に基づき、意見交換が行なわれている。意見交換の中で、課題を設定し、課題解決を通じて、ケアサービス向上に取り組んでいる。	利用者が地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えるサービスをしていく中で、地域の課題解決や活性化も関係があると思われる。運営推進会議を通じて、介護分野での地域課題解決や活性化につながることも議題として取り上げてはどうか。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	市町村担当者には運営推進会議への出席をお願いしているが参加して頂けないのが実情である。その際は議事録を届けて地域包括支援センターと連携を取り協力関係を継続できるよう取り組んでいる。	地域の地域包括支援センターと緊密に連携しながら、必要に応じて、寝屋川市とも良好な関係が築けている。	行政は介護保険の保険者であり、地域福祉の推進役のため、施設側で、介護分野での地域の課題解決や活性化に取り組んでいけば、行政との連携もより緊密になるかと思われるので、検討されてはどうか。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員会を設置すると共に内部研修やユニット会議において具体的な行為をあげ理解を深めている。また、日常業務においてもそのような言動に対して職員間で指摘し防止に努めているが玄関の解錠は未実施である。	組織的には、身体拘束防止委員会を設置し、各職員向けには内部研修を行い、各ユニット単位の会議等で職員同士が意見交換を行う対策を通じて、身体拘束を防止している。又、身体拘束を物理的な拘束としての身体の動きを制限する事だけに止めず、スピーチロックも身体拘束の1つとして取り組んでいる。	身体の物理的拘束、スピーチロック以外にドラッグロックによる薬物の過剰投与や不適切な投与で行動を抑制することも身体拘束につながるかと考えてはどうか。取り組んで行かれることに期待したい。
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設置し外部研修への参加や日常業務においても身体チェックを行い防止に努めている。また、年間研修計画にも必ず虐待防止の項目を設けている。		

8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>入居者の成年後見人とは施設管理者を窓口とし必要に応じ連絡、面談等を実施している。また、施設内研修を通じてその必要性や内容についても理解する機会を設けている。</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約前には施設管理者と同行し面談を行い不安や疑問等を伺い理解、納得頂いている。また、入居後の疑問点等についても何う様に直ぐに回答できない場合は調査、確認や管理者に上申し改めて説明している。</p>		
10 6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時にご家族と意識的に交流（会話）する様ユニット職員に通達し意見や要望を積極的に伺っている。その内容については日常業務や申し送りで共有し必要に応じてユニット会議、リーダー会議にて起案、上申し反映している。入居者に対しても同様の機会を設けている</p>	<p>家族面会時には、職員から意識的に声がけを行い、意見等を伺いノートに記録されている。記録されたノートは、各ユニット単位に職員間で共有し、必要に応じて運営に反映できるよう各ユニットリーダーは取り組んでいる。</p>	<p>ノートへの記入以外に職員、リーダー、管理者といつでもどこでもタイムリーに共有が可能なタブレットを活用したしくみを検討されてはどうか。又、意見箱への投函を気軽に投函してもらえるようアンケート用紙を用意されてはどうか。</p>
11 7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>日常業務や申し送り等の様々な場面を通じて意見集約を実施している。また、会議においては「持ち寄り」という項目を毎回設け様々な課題や原因分析、解決策を職員から募っている。</p>	<p>各職員は、日常業務での様々な意見等をノートに記録されている。記録されたノートは、各ユニット単位に職員間で共有し、必要に応じて運営に反映できるよう各ユニットリーダーは取り組んでいる。</p>	<p>ノートへの記入以外に職員、リーダー、管理者といつでもどこでもタイムリーに共有が可能なタブレットを活用したしくみを検討されてはどうか。又、職員が意見を整理しやすいようにアンケート形式での意見募集も検討されてはどうか。</p>
12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>職員の要望や家庭環境を考慮しシフト作成に反映している。また、急用、体調不良時の欠勤等においては柔軟に対応し家庭、職場双方において働きやすい環境や条件整備に努めている。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>各職員が積極的に研修参加や上級資格取得ができるようシフト作成をしている。資格取得時には新設した法人内資格取得金貸付制度の利用促進を行いOJTの推進を図っている。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>年間研修計画内に外部施設での開催を組み入れ他施設や他部門との交流を深める機会を設けている。また、施設間情報共有の一環としてSNSを試行しネットワーク構築に取り組みサービス向上に努めている。</p>		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居希望時の面談にはユニット職員が同行し本人から要望や疑問点の聞き取りを行っている。本人から聴取できない場合は家族様、後見人等から意見や要望を聞き入居後に安心して頂ける関係を築き信頼を確保している。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居相談時に問題や、課題、疑問点等を聞き取り説明を行っている。説明後や入居後でも不安や疑問がある場合は訪問、来所頂き施設管理者、支援専門員等も交えて説明を行っている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>最も必要なサービスや支援はどのようなものなのかを本人、家族様から聴取し施設管理者、訪問看護師、管理医師等の各専門職と協議、検討し初期支援、サービスの見極めと対応を実施している。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>先ずは人としての尊厳を大切に好きな事や出来ることを自由に組み立て頂き必要に応じてサポートする共生関係を築いている。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>入居者が落ち着く環境や好きな事を共有し故郷や生い立ちなどを会話しながら交流し面会時には職員が本人と家族様の間に入り本人と家族様との絆を大切に共に支えあう関係を築いている。</p>		
20	<p>○馴染みの人や場と関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>知人や親せきの方が来所された際は邪魔にならない範囲で職員も話を聞かせて頂き様々な関係性が途切れることのない様に支援している。</p>	<p>ご家族や友人、知人が気軽に面会に来てもらえるような雰囲気づくりや近くのコンビニへの買い物を通じて、地域の方と交流を行い、地域との関係性も維持継続できるよう日頃のかかわりの中で様々な工夫をしている。</p>	<p>施設側だけで取り組むことは困難なことが多いので、地域の支援者を中心に地域での応援の輪を広げていき、利用者の地域生活を地域とともに支援して頂きたい。</p>
21	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>お話が好きな方には職員が隣に座り隣席の皆様と会話が弾むように支援し、ゆっくりテレビ等を楽しみたい方は適度に声掛けや傾聴を行い利用者同士が関わり合える関係を支援している。また、席替えやレクリエーションを通じて孤立しない工夫を行っている。</p>		
22	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>契約終了後に新しい施設へ入所された方には入所先へ情報提供を行い、自宅へ戻られた方には施設外でお会いした際には近況報告や挨拶等を交わすようにしている。</p>		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	配茶時やおやつ時に入居者の近くに座りゆっくりとお話を伺う機会を設けている。様々な状況によりお話を伺えない時は家族様等から意向を聴取している。また、各種研修や講習にも参加し内容をユニット内で共有し本人、ご家族の意向に沿う様に努めている。現在、認知症介護実践者研修、ユマニチュードの修了者が在職中である。	利用者がどのように暮らしたいのか、何をしたいのか、誰に会いたいのか等と理解するために日々のかかわりの中で声を掛け、把握に努めている。言葉にしばらく思いは、日々の行動や表情から汲み取るようにしている。	把握した意向や思いの記録漏れや精度を高めるため、タブレットによる記録入力をされてはどうか。又、職員間の引継ぎ等コミュニケーションの精度も高めるため、タブレットによる音声入力による文字変換で記録を残されてはどうか。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	入居時点での生い立ちや家族構成をフェイスシートを用いて本人、ご家族から聴取している。また、認知機能低下により聴取困難な場合は情報公開請求に基づく情報把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一括管理シート、緊急時対応記録シート等を用いて心身状態の確認、把握している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の会議においてカンファレンスを実施し3月毎に介護計画書を作成している。必要に応じてサービス担当者会議やモニタリングを行うと共に医療関係者の意見も取り入れながら現状に即した計画書を作成している。	利用者やご家族との日頃のかかわりの中で、意見や思いを聞き、ケアプランに反映させるようにしている。アセスメントを含め関わる職員全員で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行っている。	日々の利用者の記録漏れや精度を高めるため、タブレットによる記録入力をされてはどうか。又、職員間のコミュニケーションの精度も高めるため、タブレットによる音声入力による文字変換で記録を残されてはどうか。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一括管理シート、申し送りノートを活用し情報共有を行っている。ユニット会議では自由に提案できる項目を設け実践結果、気づきから介護計画書の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	整容品、嗜好品等は本人、家族様から伺い面会時に納品して頂いている。家族様が購入困難な場合は職員が代行し柔軟な支援、サービスを実施している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会や小学校の協力を得て地域行事や学校行事に参加している。また、隣接の施設と共同開催で敬老会や夏祭りを開催し運営推進会議にて地域住民の方に参加を呼び掛けている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居相談時に本人、ご家族にかかりつけ医療機関の確認を実施し入居後も適切な医療を受けて頂けるよう訪問看護、往診医師と連携し適切な医療機関を受診できるよう支援している。受診後は受診状況や診断結果を家族様へ連絡している。	利用者やご家族が希望する医療機関での受診や通院ができるよう配慮されている。家族等と受診時の通院介助の方法、受診結果の伝達方法について話し合いの上、合意されている。	日々の利用者のバイタル記録漏れや精度を高めるため、タブレットによる記録入力をされてはどうか。又、記録入力されたデータは、かかりつけ医ともデータによるタイムリーな連携が可能となり、受診時の効率化にもつながると思われるので、検討されてはどうか。

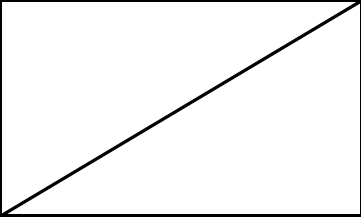
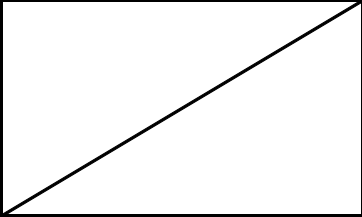
31	<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>一括管理シート、緊急時対応記録シート等を活用し気付きや情報を共有し訪問看護師、往診医師に相談している。専門医の診察が必要と判断された場合は早急な受診が行えるよう支援している。</p>		
32	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入退院時は必ずユニット職員が同行し病院、施設間で情報の共有、伝達を行っている。入院後は介護サマリーや服薬情報を速やかに提出し適時面会、電話連絡し病院関係者と介護職員の情報共有を実施している。また、施設管理者にはその都度、治療進捗や退院時期の相談、連絡を行っている。</p>		
33	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化においては状況に応じてサービス変更を行いご家族に状況や診察結果を説明し延命措置等については医療関係者を交えて説明し希望に沿う介護を実施している。終末期に関してはご家族の意向を尊重し訪問看護師、往診医師への連絡方法を新たに策定し看取りを実施した。</p>	<p>母体の医療法人と連携し、重度化や終末期看取りに対応できる体制を整備しながら、取り組んでいる。又、夜間等職員が少ない状態でも近隣の同じ法人グループの施設と連携し、対応できるよう近隣施設との連携体制整備にも取り組んでいる。</p>	<p>重度化や看取り等に対し、様々な状況の中で、その時々に対応力を把握し、現状ではどこまで支援できるのかを見極め、職員全員での話し合いの上、医療機関や家族と連携を図りながらチームとして支援していくことが重要かと思われる。考え方の指針も整理されていかれることを願う。</p>
34	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変や事故発生時の対応マニュアルを作成している。また、施設内研修では応急手当や初期対応の研修を組み入れている。現在、救命講習終了者が在職中である。</p>		
35	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回の消防訓練を実施し昼夜の避難誘導、避難経路を確認、共有している。また、隣接の施設と連携し安全で速やかな誘導ができる様に努めている。水害についての避難、誘導は運営推進会議、法人会議等において策定中である。</p>	<p>地域特性に応じた具体的な災害想定を行い、対策をたて訓練を行うよう取り組んでいる。地域との協力体制として、敷地内に災害支援型自販機の設置や近隣の法人グループ施設と連携した対策が取れるようにも取り組んでいる。</p>	<p>災害発生時には、地域の協力体制が不可欠となるので、近隣に他の法人の介護施設も多いので、これらの施設とも連携した対策が取れないか検討されてはどうか。</p>

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>入居者の生活歴や人格を考慮し声掛けや誘導方法を会議で話し合い尊厳やプライバシーを損ねない言動を行っている。特にトイレ誘導、排泄確認時は他者にも不快な思いを抱かれないよう誘導を行っている。</p>	<p>職員が利用者に対し誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけをしていないか、各ユニットリーダーを中心に職員間で日常的に確認しながら、取り組んでいる。</p>	<p>個人情報保護法が改正され、グループホームも個人情報取扱事業者となり、利用者の個人情報においては、不当な差別や偏見などが生じないよう取扱いに配慮を要することも必要となってきた。この状況からも利用者の人格尊重とプライバシー確保はますます重要となるので、継続して重要課題として取り組まれていかれることを願う。</p>
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>常に複数の選択肢を設け声掛けや支援をしている。また、配茶やおやつ時にはゆっくりとお話をする機会を設け希望の表出や自己決定を得る機会を設けている。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>入居時にはフェイスシートを用いて本人やご家族から日常の暮らしを聞き取り継続してその人らしい生活ができる様に支援している。特に食事や起床、就寝といった基本的欲求については柔軟に対応している。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>ご自身で整容できる様に起床時や入浴後など声掛けや支援を行っている。また、定期的に訪問理容にてカット等を依頼する際は事前聞き取りシートを作成しその人らしいおしゃれや髪型に近づくよう支援している。</p>		
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>月に一度は利用者と職員が調理をする手作り食を実施している。また、おやつでは職員が旅行などに行った際に地域銘菓や四季に応じたお菓子を提供し食事を通して楽しみや季節を感じるよう支援している。</p>	<p>月1回、手作り食を提供している。調理は、利用者それぞれができることを担当してもらい、職員と一緒に調理を楽しんでいる。食事中も職員は利用者へ声かけをしながら食事を楽しんでもらえるよう雰囲気づくりにも工夫されている。</p>	<p>今後も食事に関する買い物、調理、食事、後片付けなどを、利用者個々の力を活かしながら職員が一緒に行く機会を多くしていきたい。特に調理は、利用者の思い出として残るよう取り組んでいかれることを願う。</p>
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている</p>	<p>食事、水分量は一覧表を作成し常時確認できるようにしている。水分補給については複数の飲料を用意し各入居者の志向に合わせて提供している。また、摂取量が著しく低下した場合は訪問看護師、往診医に相談し医療的処置も実施している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後に口腔ケアの声掛けや支援をし就寝前には義歯洗浄剤を用いて保清を行っている。希望者には火曜日毎に訪問歯科診療にて義歯調整や疾患治療等の医療的ケアも実施している。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>水分・排泄チェック表を用い排泄パターンを把握し適時声掛けにて排泄確認や、トイレ誘導を行い排泄の自立支援を行っている。</p>	<p>トイレでの排泄を可能にするために、「行きたいときにトイレに行くことができる」よう利用者の排出パターンにそった排出介助が行われている。</p>	<p>夜間等必要に応じておむつを併用されていられる中で、排泄に何らかの支障が生じたとき、適切な提案や情報を提供してもらえる「おむつフィッター」という資格を持つ方に相談してみることも検討されてはどうか。</p>

44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>往診医や訪問看護師に食事形態や水分補給方法について上申し介護分野だけでは不十分な場合は点滴や下剤等を用いて医療的処置を適時行っている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>入浴日については一定の曜日を設定しているがその枠にとらわれることなく希望に沿った入浴支援を実施している。また、入浴されない方には足浴や清拭を行っている。</p>	<p>施設の入浴日以外でも希望があれば、入浴していただけるよう対応している。又、様々な事情で入浴ができない場合は、清拭を行う等、利用者の恐怖心、負担感や抵抗感等への配慮をしながら、利用者の意向にそった入浴支援をしている。</p>	<p>今後も継続して、利用者の意向にそった入浴支援をしながら、入浴介助を通じて、利用者の思いを確認する場としても活用されていかれることに期待したい。</p>

46	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>バイタルチェック表やその日の様子を考慮し状況に応じて居室で休んで頂けるよう支援している。日中に休まれる方は昼夜逆転にならないよう離床の声掛けをしている。就寝時間については利用者にその都度伺い休んで頂いている。</p>		
47	<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>入居者の服薬内容は所定の場所へ保管し直ぐ確認できるようにしている。また往診時は上申事項と医師指示内容を書面にて回覧、保管している。服薬内容変更後の様子は一括管理シート等を使用し共有、確認している。</p>		
48	<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>職員間で意見を出し合い塗り絵やカラオケ等レクリエーション活動を実施している。また、おやつの中には職員と入居者が一緒におやつを作りお話をしながら召し上がって頂き楽しみや喜びを共有できる工夫を行っている。</p>		
49 18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>天候や入居者の体調を考慮し散歩の声掛けを実施しているが本人の希望により公平に実施できない。ご家族からの外出希望がある場合は送迎手配や職員自ら送迎を行い支援している。また、隣接の施設と合同行事や自治会主催の行事を利用し交流を深めている。</p>	<p>施設や地域のイベントに応じた外出支援と近隣への散歩や買い物等の個別の外出支援が行われている。又、利用者全員が週2回以上の外出ができるよう取り組まれている。</p>	<p>今後も継続して、利用者が気軽に外出支援を楽しめるよう取り組んでいかれることを願う。特に重度の利用者や歩行が困難なケースでも工夫を凝らし、気分転換やストレスの発散、五感刺激の機会としての外出を活用していかれることにも期待したい。</p>
50	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金を持つことの重要性は理解しているがご家族様より紛失の不安があるとの申し出で施設や後見人管理となっている方が大半である。ただし、買い物時は職員が同行し購入や支払いの支援を行っている。</p>		
51	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>年賀状や暑中見舞いといった手紙や季節に応じた贈り物があった場合はお礼の手紙を返信し関係が途切れないように支援している。</p>		
52 19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用空間においてはカーテンや窓の開閉を職員が行い調光や温度管理を行っている。また、フロアには季節に応じた装飾を入居者と職員が作成し季節感を感じる環境づくりをしている。</p>	<p>共有生活空間は、清潔感あふれる空間となっている。利用者の方には、過去に体験した「思い」を施設の中でも展開できるよう家庭に近い環境を感じてもらえるよう様々な工夫をされている。</p>	<p>継続して家庭に近い環境を感じてもらえるよう工夫されていかれる中で、フロアの飾りつけや家具の配置等を利用者や家族と一緒に考えて、自分が住んでいる家だという意識を高めてもらえるよう取り組んでいかれることに期待したい。</p>
53	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>限られた空間では一人ひとりの居場所の確保は困難である為、独りでゆっくりと過ごしたい方には居室で過ごして頂けるよう居室誘導の声掛けを積極的に行っている。また、利用者同士の交流という点においては要望を伺い座席、テーブル配置の変更を実施している</p>		

54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時に思い出の写真や品物をお持ち頂き本人の意向を伺いながら心地よい空間をとるよう努めている。</p>	<p>利用者が持ち物が少ない、身寄りがない、家族の協力が得られない等の場合でもその状況にとらわれず、利用者の意向を確認しながらその人らしい居心地がよい居室づくりに取り組んでいる。</p>	<p>継続してその人らしい居心地がよい居室づくりに取り組んでいられる中で、様々な事情により持ち込みの少ない方でも、職員と本人が相談しながら、例えばリサイクル品などを利用して、利用者が落ち着いて過ごせる</p>
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>居室やトイレの場所が理解困難な利用者には場所を図案化し混乱が少なくなるようにし、誘導の際は職員からの一方通行とならないような声掛けを行っている。</p>		

V アウトカム項目		
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができている	○ ①ほぼ全ての利用者として ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は活き活きと働いている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない